

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4570102543
法人名	有限会社 美大
事業所名	グループホーム年輪
所在地	宮崎市大字恒久5983番地 (電話) 0985-52-4841
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成20年6月24日(火)

【情報提供票より】(20年6月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年9月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	6 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 7.4 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての 階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	300 円
	夕食	350 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 85.2 歳	最低	74 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	南部病院、野崎病院、巴外科内科、いちほら医院、早稲田内科神経科医院、なかやま歯科医院
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの周辺は教育や医療機関などの社会資源が多く存在する環境にあり、ホーム自体も近隣の住宅に溶け込んでいる。敷地内には自家菜園もあり、四季折々の食材が常に食卓に上がっている。利用者と職員は家族のような語らいがあり、利用者のすぐ近くで生活支援ができるような、寄り添いケアができています。近隣住民が気軽に訪問され、職員も自治会活動や地域の奉仕作業に参加するなど、地域の中のホームとしての役割ができています。地域に根ざしたホーム、そして利用者の尊厳などの理念に沿った支援に積極的に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	ホームの理念は4つの箇条書きでわかりやすく表され、地域密着型のホームとしての理念も謳われている。介護計画の評価と見直しについても、1か月ごとのモニタリングを介護計画の見直しにつなげられるように、担当者と介護計画作成担当者との連携が図られている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価についての意義の確認や、自己評価についての職員全体での取り組みや話し合いができており、経営者や管理者だけでなく、職員全体で自己評価に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	3か月ごとの運営推進会議がなされており、行政担当者や家族代表、地域住民の参加による会議となっている。また会議では利用者の生活状況の報告や、家族や地域住民の意見に対する検討がなされ、利用者支援に活かすための取り組みがなされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会組織もあり、家族の意見を聞く機会もある。また第三者委員会も設置して、外部からの意見を聞きながら、ホームの運営に反映させている。家族への報告はホーム便りや家族面会時の密接なコミュニケーションにより利用者の生活状況や行事、ホームの取り組み、職員の異動、紹介などを掲載している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームの周辺は住宅や医療機関が多くあり、地域住民も気軽に立ち寄れる環境にある。地域の保育所やボランティア団体が、行事のときだけでなく日常的に訪問したり、利用者が保育所の行事に出向くなどの交流を図っている。また地域の奉仕作業や自治会行事にも職員は積極的に参加している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「尊厳」「地域に根ざしたホームづくり」「接遇の向上」「プライバシーの保護」という、とてもわかりやすい言葉で表現された地域性を盛り込んだ独自の理念ができています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は始業時の申し送りの際や、毎月の職員会議の中でその理念を読み上げたり、確認しあっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の保育所やボランティア団体が、行事のときだけでなく日常的に訪問したり、利用者が保育所の行事に出向くなどの交流を図っている。また地域の奉仕作業や自治会行事にも職員は積極的に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価についての意義の確認や、自己評価についての職員全体での取り組みや話し合いができています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3か月ごとの運営推進会議がなされ、行政担当者や家族代表、地域住民の参加による会議となっている。会議で出された意見をもとに、サービスの改善につなげようと積極的に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者や経営者が行政や関係機関との連携をとっており、制度のことだけでなく、利用者の身上等についても相談するなどの機会を作っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便り(通信)も定期的にわかりやすく、利用者の生活状況や行事、ホームの取り組みや職員の異動、紹介などを掲載している。また面会時には家族と職員は親しみのあるコミュニケーションに努めながら、利用者についての報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会組織があり、家族の意見を聞く機会がある。また第三者委員会も設置され、外部からの意見を聞きながら、ホームの運営に反映させており、その記録により確認することができた。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来の職員の異動は少なく、異動等による職員の引継ぎも、およそ2か月間かけて引継ぎを行うので、利用者には動揺や違和感がないように配慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議は毎月開催され、外部研修や内部での研修も積極的に取り組んでいる。研修の報告書や資料も整理されており、他の職員がいつでも見れるようにしている。また経営者は資格取得のための奨励も積極的におこなっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県央ブロックの連絡協議会や他のグループホームとの交流が定期的におこなわれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	いきなりサービスを開始せず、ホームの見学をしてもらったり、説明を充分にして利用者が納得できるように配慮している。また体験利用の際には、本人が好きな趣味活動などの実施で馴染んでもらえるような取り組みを行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者のペースに合わせて動き、利用者の言葉にきちんと耳を傾けるようにしている。また職員が利用者から学びながら漬物や梅干漬けなどを一緒にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活の中で外出などの希望があれば、できるかぎりその意向に添えるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は定期的に担当者がその内容を確認して、介護計画作成担当者と話し合ったり、カンファレンスに参加することで作成するようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のモニタリングや、利用者の変化に応じたアセスメントができており、3か月毎の介護計画の見直しの際には、本人の意向や希望もプランに取り入れている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームは家族や他者も宿泊できるようにしており、緊急時の宿泊などの利用ができるように地域に呼びかけを行っている。また外来受診は家族対応ができない場合には職員が対応するようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者はそれぞれ主治医があり、ホームはその主治医との連携をとるようにしている。また近隣には多くの医療機関もあり、協力医としての連携も図られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの指針や終末期の同意書なども準備しており、職員も終末期に関する研修等に積極的に参加して、職員同士で話し合いをするなどの意識高揚に努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者に対してさりげなく自尊心に配慮した声かけができています。また個人の記録等についても事務所に保管しており、目に付くところには置いていない。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活ペースに合わせて支援ができています。ホームの日課に無理に合わせてようしたりせず、利用者一人ひとりができることについての支援ができています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は利用者ができることを職員が傍らで見守りながらしている。食材は敷地内の自家菜園で収穫したものを使用しており、職員も同じ食事を食べながらその食材の話をし、声かけなどの支援もできている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者は一日おきの入浴になっているが、回数や時間などの個別の希望にも浴うようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は洗濯物の係り、掃除の係り、テーブル拭きの係りなど、自発的または自然にその役割をこなしており、職員も側面的な支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出は毎月行事として計画している。また週一回は買い物やドライブもできている。独りでの散歩を好まれる方には、一人での散歩ができるように見守り支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関はセンサーチャイムがあるが施錠はされていない。また裏口の戸も同様に施錠しておらず、帰宅願望のある利用者は職員の見守り支援や声かけができています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は毎月できるように計画している。しかし訓練時の地域住民の参加はない。ベランダには手製の滑り台があり、緊急時に避難できるようにしている。しかしベランダは物が多く緊急時の妨げになってしまう。また非常口は施錠が二重にしてあり、開けると段差が大きく実用的ではない。	○	避難訓練では年に2回ほどは地元の消防団にも呼びかけを行っているが、地元住民の参加も検討してほしい。またベランダや非常口からの避難がしやすいような取り組みも期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ホームが立てた献立の内容については、近隣病院の栄養士に指導を受けている。また入居者にカロリー制限のある場合や医師の指示がある場合には、食事の内容等の調整を行っている。献立作りの際には、利用者の希望も取り入れている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の採光や換気、空調関係も入居者が心地よく過ごせる空間になっている。食堂兼くつろぎスペースは、常に利用者と職員が共に共有できるようになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者がそれぞれの個性に合ったものにしてあり、時や暦を知らせるカレンダーや時計も置いてある。また仏壇や使い馴染んだ家具なども持ち込んであり、個性的な空間になっている。		